

### 予防接種について

今、世論を騒がしている予防接種ですが、子供をもつ母親にとつて接種を受けるべきかどうかまよっている人が多いと思います。

予防接種は、特定の病気に對して、特異的な抵抗をつけさせるための処置であり、その効果は、ワクチンの種類によつてかなり異なり、また体質や健康状態によつては副作用を予想しなくてはならないものもあります。しかし、社会生活においてお互いの健康を保持するため、予防接種は、是非ともしなければならぬものです。

南国市民の皆さん  
謹んで新年のご祝詞を申しあげます。  
限りなく栄え続ける今の社会の中から、災害、公害を除去し、心と心のふれあう政治を課題といたし頑張つてまいります。「異例の建設政務次官留任」となり、国土総合開発、特に郷土の開発に気概をもつて努力を致します。

さて、昨年八月10号台風の災害復旧のため中央防災会議に對し、激じん災適用の猛運動を展開し、県民各位のご協力により、このたび政府の採択するところとなりま

ワクチンは、生ワクチンと不活化ワクチン(菌を殺したもの)の二種類に分けられ、生ワクチンにはBCG・ポリオ・痘そうなどがあり、不活化ワクチンには、百日咳・コレラ・腸チフス・ペスト・日本脳炎・インフルエンザ・破傷風・ジフテリアなどが含まれます。

ワクチンの効果が非常に有効なものは破傷風・ジフテリア・百日咳・BCG・痘そう・ポリオなどで、中等度の効果のあるものはコレラ・麻しん・インフルエンザなどで、効果の少ないものは、腸バクテリウムです。  
副作用としては、普通、発熱、

した。被害者の皆様に対し改めてお見舞い申し上げます。実はその当時、関係地方公共団体の皆様に懸命に訴えてまいりましたことは、

#### 建設政務次官

衆議院議員 田村良平

すなわち防災対策であります。国土の保全すなわち国民生活の安全を守るためには、ただいまの災害対策基本法のみでは到底完全ではありません、『天災は忘れた



頭痛などの症状のあることはご承知のとおりですが、ある種のワクチンについては、五、十万人に一人位の割合で不具・白痴になることがあります。接種前にアレルギー

一 体質・胸腺リンパ腺体質の有無を回診せよと一般にいわれていますが、実際に学校などで短時間に多数の子供に接種するときは、不可能に近く、また母親などの答え

頃にやってくる』その忘れた頃に天災がやってきても災害が起らないようにしておいたらどうでしょう。この防災対策基本法(仮

称)的な防災措置が、あらかじめ講じられていたら生命財産の安全確保にとつてどんなにか力強い政治となりましょう。十分検討されるべきではないでしょうか。特に

も必ずしも正確ではありません。アレルギー体質の子、心・肺疾患をもつ者には、予防注射をしないようにといわれていますが、真実をいえば、このような人こそ病気になるので大変です。積極的に予防注射をすべきです(ジフテリア・破傷風、インフルエンザ等の場合)。また、アレルギー体質の子に、破傷風トキソイドを注射しても何ともないことが多くあるといわれています。事故発生を予測することは、必ずしも容易ではなく、あまりその発生を恐れると、当然予防接種を受けなければならぬ人が除外される恐れがあります。その対策として、注射後

台風常襲地の土佐の高知です。年に一、二回は必ず集中豪雨、地すべり、台風がやってきます。海岸保全、砂防、中小河川対策、都市河川などの防災対策が事前になされてこそ天災が防止できるので、不幸な災害の発生後に復旧法が発動され、また激じん災が適用されても失なわれた国民の生命や財産は帰つてまいりません。国民総生産が世界2、3位といわれる日本です。東海道には新幹線空にはジェット機時代です。天災を防止し、生命財産の安全が守られる、それがすなわち福祉国家です

四國循環鉄道をつ、さらに本州四国には三つの橋を架けようではありませんか。われわれは上を向いて胸を張り、そして足もとをみつめて、南国市長を中心に、ともに郷里南国市を、そして高知をさらに日本をよくしようではありませんか。(終)

毎月20日は「献血の日」です